SHOW-HEYシネマルーム

★★★★

ゴジラ-1.0

2023 年／日本映画
配給：東宝／125 分

2023（令和 5）年 11 月 3 日鑑賞	TOHO シネマズ西宮 OS

Data　２０２３－１３２

監督・脚本・VFX：山崎貴
出演：神木隆之介／浜辺美波／山田裕貴／青木崇高／吉岡秀隆／安藤サクラ／佐々木蔵之介／飯田基祐／田中美央

みどころ

1954 年のビキニ環礁での水爆実験と第五福龍丸の水没事故によって誕生したゴジラ映画は、来年 70 周年を迎える中、日本版実写映画は 30 作目に！しかして、CG 撮影の第一人者、山崎貴監督が、ハリウッド版『GODZILLA ゴジラ』（14 年）や樋口真嗣監督版『シン・ゴジラ』（16 年）の出来や人気を超えるべく挑んだのが、ケッタイなタイトルの本作だが、その狙いはどこに？

体長 50m のゴジラが銀座を蹂躙する姿はさすが（？）だが、そもそも本作の主人公となる特攻隊員の行動は一体ナニ？戦後日本の描き方は一体ナニ？

民活によるゴジラ退治（？）として描かれる「海神作戦」も一体ナニ？こんなことが現実に可能なの？私には違和感がいっぱいだ。さらに『永遠の 0』（13 年）で観たラストの特攻には涙が溢れたが、本作ラストの戦闘機「震電」に乗った特攻生き残りの主人公による“特攻”の是非をどう考えればいいの？

――＊――＊――＊――＊――＊――＊――＊――＊――＊――＊――

▪▫■設定に違和感あり！特攻の生き残りがこんな行動を？■▫▪

『永遠の 0』（13 年）（『シネマ 31』132 頁）は“特攻”をテーマとした映画で、超保守派の作家・百田尚樹の原作を映画化したものだった。そのため、同作は一方で山崎貴監督による CG を中心とした映像美が注目されたが、他方で、そのテーマと岡田准一が演じた主人公・宮部久蔵の生きザマと死にザマについて賛否両論を呼んだ。そんな山崎貴監督が、大ヒットした樋口真嗣監督の『シン・ゴジラ』（16 年）（『シネマ 38』22 頁）に続いて、また、1954 年の第 1 作『ゴジラ』から数えて、日本版ゴジラ第 30 作の節目として、さらに 2024 年に 70 周年を迎える『ゴジラ』シリーズの第 30 作目として挑んだ本作は、『ゴジラ－1.0』という何とも不思議なタイトルになっている。それは、敗戦によってゼロになった日本が、ゴジラの出現によって更にマイナスになっていくという意味らしいが、山崎監督

は本作をなぜ、そんな分かりにくい（ワケの分からない？）タイトルにしたの？

本作冒頭、大戸島の守備隊基地に敷島浩一少尉（神木隆之介）が操縦する零戦が着陸する風景が描かれる。これは、特攻に向かう途中で機体が故障したためだが、ベテランの整備兵・橘宗作（青木崇高）には、その故障個所が見つけられなかったから、アレレ・・・。『永遠の 0』では、大きなテーマが主人公・宮部の海軍軍人としての生きザマに当てられていたうえ、ストーリー後半からは、その宮部が特攻隊員になってからの死にザマに注目が集まったが、本作に見る特攻隊員・敷島の生きザマと死にザマは？まさか、敷島は機体の故障をでっち上げて（？）逃げ戻ったの？そんなバカな？太平洋戦争末期の昭和 20 年というあの時代、零戦に乗るそんな特攻隊員がいるはずはない。

私がさらに違和感を持ったのは、突然の呉爾羅（ゴジラ）出現を前にして、橘から零戦に装着された 20 ミリ砲で呉爾羅を撃つよう頼まれた敷島が、20 ミリ砲の前に座ったにもかかわらず、なぜかそれができなかったこと！そんなバカな？敷島が 20 ミリ砲を撃たなかったため、多くの整備兵たちは呉爾羅に蹂躙され、殺されてしまったわけだが、まさか敷島は目の前の呉爾羅の怖さに恐れおののき、小便でもチビッたの？そんなバカな？私には、そんな本作冒頭の設定に違和感がいっぱい！

■□■戦後の東京。焼野原での２人の“運命の出会い”は？■□■

私は小学校高学年の頃、ラジオで『君の名は』を毎日聞いていた。それが私の意思によるものだったか、それとも、たまたま母親が聞いているものにお相伴していただけかは思い出せないが、部屋の間取り、ラジオの声、そこから聞こえてくる物語の切なさ（？）等々は、今でもはっきりと覚えている。菊田一夫のラジオドラマ『君の名は』における春樹は、真知子に対して「君の名は？」と尋ねたきりで、なかなか出会うことができなかった。

しかし、本作では終戦後、焼野原になっている東京に引き上げてきた敷島が、赤ん坊を抱えた若い女性・大石典子（浜辺美波）と闇市で偶然出会った末に、典子がそのまま敷島のバラックに居ついてしまうストーリーが描かれる。「軍人のくせに負けてノコノコと帰ってきた」敷島に対して、最初は強く憤慨していた隣人の太田澄子（安藤サクラ）も、赤ん坊が空襲の最中に典子に託された他人の子であることを知ると、人情の向くままに典子や赤ん坊の面倒を見るようになったから、そこでは一見、“疑似家族”と“良き隣人”のようなコミュニティが完成！すると、そこから『君の名は』と同じように敷島と典子との間に、新たな愛が芽生えていくことに・・・？

それはともかく、生活費を稼ぐために、戦争中に米軍が残した機雷を撤去する仕事に就いた敷島は、撤去作業を行う特設掃海艇「新生丸」の艇長の秋津清治（佐々木蔵之介）、戦時中に兵器の開発に携わっていた元技術士官・野田健治（吉岡秀隆）、若い乗組員の水島四郎（山田裕貴）との間で強い“仲間意識”で結ばれることに。さらに数年経って、澄子が赤ん坊の面倒を見てくれるようになると、典子は自立した女になるべく銀座で働くことに。

なるほど、日本の奇跡的な戦後復興は、このような日本国民の頑張りによって成し遂げ

られたわけだ。そういえば、『ALWAYS 三丁目の夕日』（05 年）（『シネマ 9』258 頁）、『ALWAYS 続・三丁目の夕日』（07 年）（『シネマ 16』285 頁）、『ALWAYS 三丁目の夕日’64』（12 年）（『シネマ 28』142 頁）三部作も、そんな良き昭和の時代を描いた名作だった。

■□■ゴジラが東京を蹂躙！戦後復興の姿に異論あり！■□■

『ゴジラ（1954）』（54 年）（『シネマ 33』258 頁）を観れば、ゴジラのヒント（誕生）は 1954 年のビキニ環礁での水爆実験と、第五福龍丸の沈没事故であることがわかる。同作でも、東京湾から上陸したゴジラが東京の市街地を襲うシーンが特撮技術とともに話題になったが、CG 技術の第一人者たる山崎貴が監督した本作では、東京を襲うゴジラの姿をどんな特撮で観客に見せるのかが注目されるのは当然だ。

しかし、本作のその姿に、私にはかなり異論がある。それは、“戦後すぐ”という設定であるにもかかわらず、ゴジラに襲われる銀座の復興があまりにも進みすぎているためだ。ちなみに、『リンゴの唄』は 1945 年、『東京ブギウギ』は 1947 年、『青い山脈』は 1949 年の発売だが、『有楽町で逢いましょう』は 1957 年、『銀座の恋の物語』は 1961 年の発売だ。つまり、有楽町や銀座にビルが立ち並び、華やかな雰囲気が戻るには、やはり約 15 年は必要だったわけだ。『ゴジラ（1954）』に見るゴジラの東京襲来と、本作に見るゴジラの銀座蹂躙は、対比して考えれば考えるほど、私には、本作のゴジラによる銀座蹂躙の姿には異論がある。そのうえ、大戸島に現れた時は体高が 15m だったゴジラが、今は体高 50m に成長していたうえ、その口から吐き出す熱線の熱量は重巡「高雄」を海の藻屑にしてしまうほどすごいものだったから、人混みの中でその熱線を浴びた典子は一瞬でアウト！誰もがそう思ったが・・・。

■□■海神作戦とは？民間活力で対抗？この設定も異論あり！■□■

『史上最大の作戦』（62 年）は、タイトル通りの連合軍の対独上陸作戦を描く壮大なドラマだったが、本作に見る海神作戦とは？それは、「フロンガスの泡でゴジラを包み込み、一気に深海まで沈めて急激な水圧の変化によって、ゴジラを倒す。第二次攻撃として、今度は大きな浮袋を深海で膨らませ、海底から海面まで一気にゴジラを引き揚げて、凄まじい減圧を与えることで息の根を止める」というものだ。この作戦は、駆逐艦・雪風の元艦長・堀田辰雄（田中美央）をリーダーとした「巨大生物對策説明会」の席で野田が発表したもので、そこには「新生丸」のメンバーも集まっていた。これは、ゴジラによって東京は壊滅的な被害を受けたにもかかわらず、駐留連合国軍はソ連軍を刺激する恐れがあるとして軍事行動を避けたため、自前の軍隊を持たない日本は民間人だけでゴジラに立ち向かうことになった、という設定によるものだが、私はこんな筋書きに異論あり！いわゆる民活は、昭和 50 年代の「中曽根民活」の中で活発になった言葉だが、戦後間もなくの時代のゴジラ退治にこんな形で民活が語られるとは！？しかも、そのリーダーが元軍人とは！？

本作は野田の説明に対して、いくつかの質問が出された後、「なぜ俺たちがやらなければならないの？」という異論（正論？）に対して、「誰かが貧乏くじを引かなくてはいけない」

と叫ぶ民意（正論？）が打ち勝ち、最終的に戦争を生き抜いた民間人たちがゴジラとの戦いを決意するわけだが、本作中盤ではそのプロセスに注目！しかし、下手すると命を落とすかもしれないゴジラ退治の民間プロジェクトのために、わざわざ自分の仕事を休み、何の危険手当も日当も出ないままに本当にこんなに多くの民間人が参加するの？そう考えると、私は本作のそんな設定にも異論あり！

■□■「震電」の活用と“元特攻隊員”敷島の役割は？■□■

日本のゼロ戦は世界に名を馳せた名機で、対米開戦当初は華々しい戦果を挙げた。しかし、米軍の戦闘機の能力が向上するにつれて、次第に分が悪くなってきた。そんな中、戦争末期に向けて、新たに開発された新型機が「紫電」と「紫電改」だ。戦後 3 機の紫電改が米国に輸送されて展示されており、日本では 1978 年に愛媛県の久良湾から引き上げられた一機の機体が「紫電展示場」で保存されている。

それが現実の話だが、本作のスクリーン上には、“幻の戦闘機”「震電」が、整備さえすれば「海神作戦」における対ゴジラとの実戦に使えるという状態で登場してくるので、それに注目！これを整備できるのは、橘しかいない。そう確信した敷島は、「大戸島玉砕の原因は、すべて橘にある」という嘘の手紙を橘に送り、激怒させることによって、運命の面会を果たすストーリーが描かれるが、さあ、橘の整備によって、飛行可能となった「震電」の性能は如何に？

野田が立案した海神作戦において、敷島が乗る震電が果たすべき任務は、ゴジラの周りを飛行しながら、ゴジラを所定の方向・位置に誘導するもの。敷島はそんな自分の任務を理解し承知した上で海神作戦に参加しているわけだが、特攻の生き残り（死に損ない？）として戦後悶々とした気分の中で生きてきた敷島は、今どんな気持ちでその任務に就いているの？

■□■海神作戦の成否は？「震電」による“特攻”の是非は？■□■

『ゴジラ（1954）』では、芹沢博士が発明したオキシジェン・デストロイヤーの効果が最大のポイントだったが、海底に潜むゴジラの側に行ってのその散布作戦の実施は小規模なものだった。それに比べると、本作に見る海神作戦は、国や自衛隊の参加がなく、民間活力によるボランティアだとしても、その規模はバカデカいものだ。海神作戦の立案者であり、現場でもその指揮を取る野田が自信たっぷりではなく、とにかくやってみなければ仕方がないというスタンスを貫いているのは正直と言えば正直だが、その賛否は分かれるだろう。しかし、重巡「高雄」を、口から吐く熱線で、瞬時に海の藻屑にしてしまったゴジラの圧倒的なパワーの前に、海神作戦は本当に機能するの？

作戦が進む中で、今その成否の鍵は震電を操縦する敷島によるゴジラの誘導ぶりにかかってきたが、その時点で見えてきたのは、どうやら敷島の頭の中は、海神作戦の遂行とは別に、ゴジラ退治についての自分だけの秘めた決意があるらしいということだ。『永遠の 0』では、特攻逃れの行動ばかりとっていた主人公の宮部が、最後の最後になって特攻してい

く姿が涙を誘ったが、なんと本作では、敷島は海神作戦の遂行中の仲間たちが見守る中、爆弾を積んだ震電もろとも大きく開いたゴジラの口の中へ！神風特攻隊の特攻をもろに受ければ、戦艦だって空母だってたちまち撃沈してしまうのだから、震電の特攻をまともに口の中に受けたゴジラは如何に？

しかして、特攻生き残り（死に損ない？）の敷島が、今震電に乗って敢行したゴジラへの特攻の是非は？そう思っていると・・・。

2023（令和5）年11月9日記